

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1989. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.57

日本野鳥の会 埼玉県支部

鐘撞堂山 (寄居町)

(1)はじめに

鐘撞堂(かねつきどう)山と聞いて、変わった名前だと思いませんか。この名前の由来は、戦国時代、頂上に連絡や合図に使用した鐘撞堂があったからだといわれています。

山の高さは330.2mあり、頂上から四方がよく見わたせ、特に南側を西から東へ流れる荒川は最高です。

(2)探鳥コース

東武東上線、八高線、秩父線の寄居駅下車。北口から出て、国道140号線をわたり、大正池に向かいます。

大正池でひと休みし、カイツブリ・キセキレイ・セグロセキレイ・カワセミをさがしてみましょ。

右に大正池をすぎて、鐘撞堂山へと登って行きます。山道では、季節ごとの山野の小鳥

たちを楽しみながら登ります。

間もなくT字路になって、右・鐘撞堂山、左・円良田湖(つぶらたこ)の道標があり、頂上をめざします。頂上手前に100段の石段があります。試しに数えてみたらいかがでしょうか。頂上では、ワシ・タカ類の飛ぶ姿を眼下に見る(特に渡りの時期)ことができます。また、このコースは、ふるさと歩道にも指定されています。

(3)見られる鳥の種類

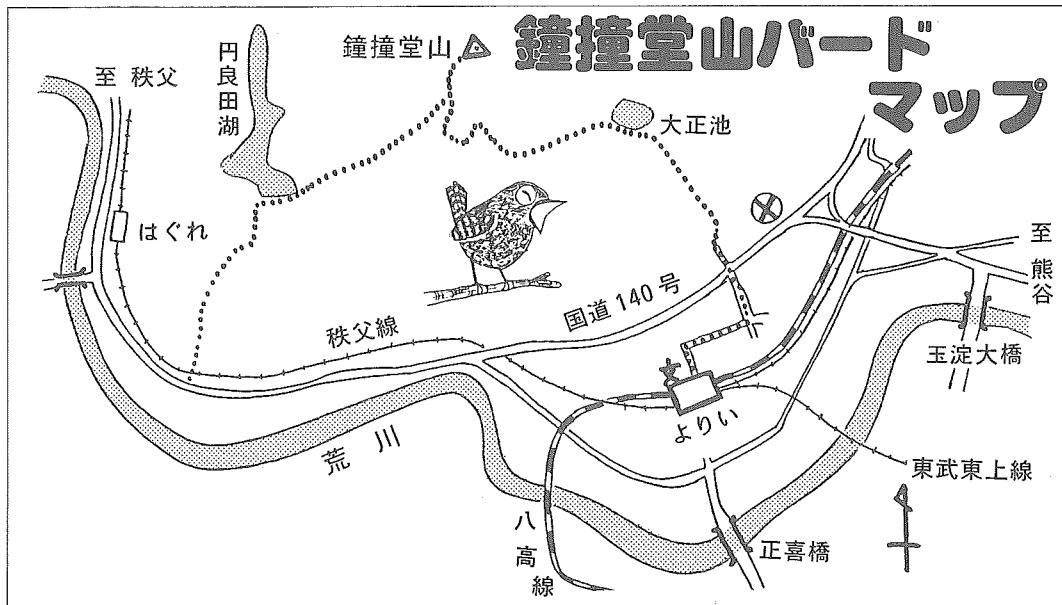
表は、今までの探鳥会の記録とワシ・タカ調査の記録より集計したものです。

年間を通して見られる種類も多く、特に春から初夏にかけてのサシバ・キビタキ・ヤブサメ・センダイムシクイ等と、秋から冬にかけてのタカの渡り・カラ類の混群が楽しみです。

表 見られる鳥の種類

種類	季節	春	夏	秋	冬
カイツブリ		○	○	○	○
ゴイサギ		○	○	○	○
コサギ		○	○	○	○
マガモ		○		○	○
カルガモ		○	○	○	○
トビ		○		○	○
オオタカ				○	○
ハイタカ				○	○
ノスリ					○
サシバ	○			○	
コジュケイ		○	○	○	○
キジ		○	○	○	○
キジバト		○	○	○	○
アマツバメ				○	
カワセミ		○	○	○	○
アオゲラ		○			
アカゲラ		○			
コゲラ		○		○	○
ツバメ		○		○	
イワツバメ				○	
キセキレイ		○	○	○	○
ハクセキレイ				○	○
セグロセキレイ		○	○	○	○
ヒヨドリ		○	○	○	○
モズ				○	○
ミソサザイ					○

種類	季節	春	夏	秋	冬
ルリビタキ					○
ジョウビタキ					○
ツグミ					○
ヤブサメ			○		
ウグイス		○	○		○
センダイムシクイ			○		
キビタキ			○		
エナガ		○			○
ヒバリ		○	○		
ヒガラ					○
ヤマガラ		○		○	○
シジュウカラ		○	○	○	○
メジロ		○	○	○	○
ホオジロ		○	○	○	○
カシラダカ					○
アオワジ		○			○
カワラヒワ		○	○	○	○
イカル		○			○
シメ		○			○
スズメ		○	○	○	○
ムクドリ		○	○	○	○
カケス				○	○
オナガ		○		○	○
ハシボソガラス		○	○	○	○
ハシブトガラス		○	○	○	○
種数		35	24	34	41



(4)鳥のほか

春から夏にかけては野草の花も楽しみです。大正池付近では、スマレ・チゴユリ・ウワミズザクラ・ヤブラン・ホソバアオダモが見られます。山道では、キケマン・ムラサキケマン・ヤブミョウガ等が、頂上付近ではオトコヨウゾメ・山ツツジが見られます。

(5)終わりに

帰りは、円良田湖へくだり、秩父線波久礼（はぐれ）駅へ、または、円良田湖から寄居駅がよいでしょう。時間のある方は、玉淀湖へ足を伸ばすのもよいでしょう。ヤマセミがいます。

（小淵健二）

個人的きまま野鳥記 5 メジロ



林の上をすれすれにオオタカが飛んだ。その瞬間林の中は静まり返った。静かになって、初めて林の中はたくさんの小鳥たちの声に満ちていたことを知った。しばらくすると、やはり最初に鳴き始めたのは黙っていられないやかまし屋のヒヨドリ、ヒーヨ、ヒーヨ。用心深くジクジク、ツ

ピーとシジュウカラ。

チー、チーとメジロの細い声も戻ってきた。いつも繰り返されている自然の営みのひとかけらに立ち会えた思いを、ほんのささいなひとかけらでも、バードウォッチャーは心にきざみこむ。

冬の林の中で出会ったメジロたちは、クヌギが傷口から流す樹液を吸いに集まっていた。2ペア・4羽のメジロたち、樹液の出る3カ所を争いながら盛んに吸ったり、木の実をついばんだり。

時にビビビビと鳴く警戒の声はいがいと力強い。

動作の機敏な木の精たち。

木の幹によりかかって自分も木になって、バードウォッチャーは飽きず見ている。

（五条壇武男）

1988年秋のシギ・チドリ類調査報告

別表

	利根川 阪東大橋 (本庄市)		荒川 明戸 (川本町)		荒川 秋ヶ瀬 (浦和市) (大宮市)		深作沼 (大宮市)	
	'87年 秋	'88年 秋	'87年 秋	'88年 秋	'87年 秋	'88年 秋	'87年 秋	'88年 秋
コチドリ	—	2	—	—	—	26	2	1
イカルチドリ	8	1	1	—	—	—	—	—
シロチドリ	45	1	—	—	—	—	—	—
ムナグロ	—	—	—	—	179	112	—	—
ダイゼン	—	1	—	—	—	—	—	—
ケバリシギ	—	—	—	—	—	2	—	—
ヒバリシギ	—	—	—	—	—	1	—	—
アオアシシギ	5	10	—	—	—	—	—	—
クサシギ	1	—	1	—	1	1	8	5
タカブシギ	—	—	—	—	36	15	1	—
イソシギ	4	3	10	7	—	—	3	2
タシギ	—	—	—	—	29	72	3	—
ジシギSP.	—	—	—	—	2	1	—	—
1987年11種 1988年13種	5種	6種	3種	1種	5種	8種	5種	3種

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

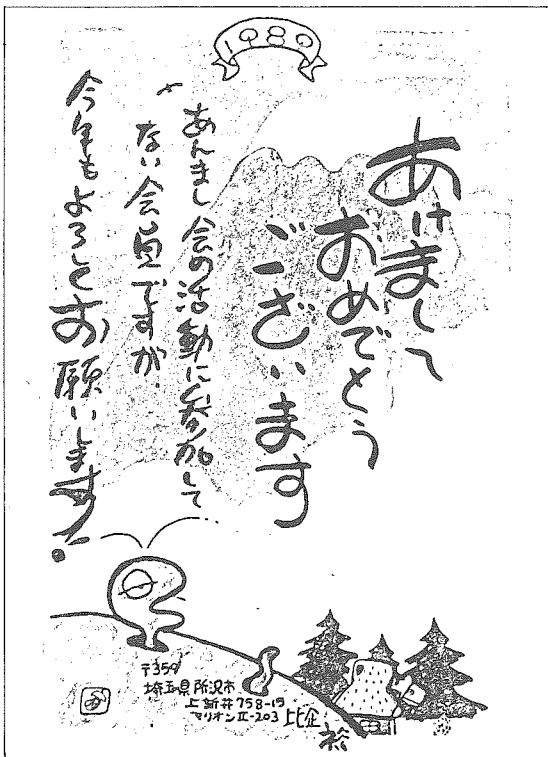
去る9月15日、秋のシギ・チドリ類県内一斉調査が行なわれた。当日は、接近中の台風18号の影響で、埼玉も全県的に厚い雲に覆われ、ときおり強い雨にみまわれたあいにくの天気であった。風雨の中、25名もの会員のご協力をいただき、県内4か所において調査が実施された。概況は別表のとおりである。

今回の調査では、種数こそ'87年より多かった（'87年11種、'88年13種）ものの、個体数は少なかった。'88年夏は雨が多く、特に9月に入ってから毎日のように雨が降り、河川は増水し、シギ・チドリ類が降りる環境が狭められたのも一因である。秋ヶ瀬地区ではタンギが昨年より多く、注目される。

最後に、荒天にもかかわらず調査に参加していただいた会員の皆様には心より御礼申し上げます。次回の調査は4月29日。

(執筆 榎本秀和)

読者の声



川田谷の“切り通し”

吉本富美子（清瀬市）

今日は鳥の話ではなくて恐縮です。

鳥を訪ねてあちこち歩きますと、時に強く印象に残る風景に出会うことがあります。

川田谷地区の“切り通し”は、何故か私に不思議な魅力で迫る風景の一つです。タゲリを見に行かれた時に、皆さんご覧になっている“切り通し”ですが、改めて私がここだと指差しても、恐らく一笑に付されることでしょう。そこはごくありふれた、どうということのない小さな“切り通し”ですから。

夏には“切り通し”の両側から思い切り伸びた枝葉が、トンネルのようにかぶさって、自転車を引いてエッチラ、オッチラ登って行く人に、涼しげな黒い翳を落しています。冬に入ると“切り通し”は明るくなって、白い空と白い坂がつながって、そこだけ空が落ち込んだように見えます。

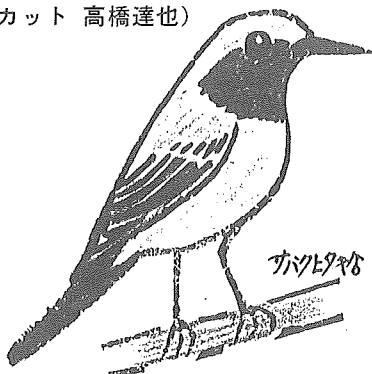
土手の下の小道を何処からともなく自転車が枯葦の隙間をキラキラ光らせて走ってきます。鞆を持った女学生だったり、ただのおじさんだったり。そして何処へともなく視野から消えてゆきます。そんな風景を遠くからぼんやり眺めているのが好きです。

雪が降り積ったら“切り通し”はどのように変貌するのでしょうか。

川田谷。川と田んぼの谷、単純明快、殺風景とも思えるこの地名も、私には素朴で暖かい響きに聞こえ、魅力の一つとなっています。

大げさに言わせて頂けるなら、川田谷は、私の心の遊べる大事な場所と言えます。

(カット 高橋達也)



白幡沼だより

海老原美夫（浦和市）

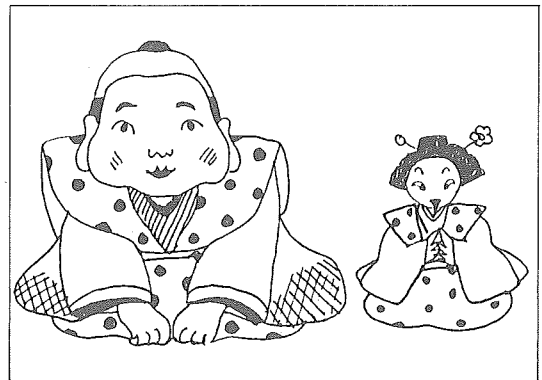
だいぶ寒くなりましたが、お元気ですか。

今（11月～12月）の白幡沼のスターはカワセミでしょうね。寒い地方のカワセミは、冬になると水面の凍らない地域に移ります。白幡沼には、今の季節毎年そういうカワセミがあらわれます。きれいなメスです。ここ数年ずっとメスです。

沼の水面が凍るようになるまで滞在します。凍ると、きっともって暖かいほうまで旅していくのでしょうか。姿が見えなくなります。

そうすると当然あのにぎやかなカイツブリもいなくなり、かわって氷の上に並ぶカモたちがスターの座をうばいます。多いときは2～300羽のオナガガモ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモなどが、冬の陽を浴びて昼寝したりパン屑を投げてもらったり。

遠くに行くのがどうもシンドイな、なんていうときには、ちょっとおでかけください。



ケリ 5 羽

三田長久（狭山市）

10月23日、午前10時40分～12時20分。狭山湖にてケリ5羽をみました。湖の中に突き出した砂地の先端に休んでいたとき、ドバトにしては姿勢がいやに立っているのでおかしいな、と思いましたが、10月9日の探鳥会の帰りにケリを見に連れて行って頂いた経験がものをいい、飛びたったときすぐにケリだとわかりました。緑の森と青い湖の上を白と黒のコントラストもあざやかに、みごとな編隊飛行を見せてくれました。

鳥鳥情報

カワウ ◇11月3日、行田市下中条の利根川武蔵大橋上流で1羽(井上幹男)。◇11月27日、本庄市の阪東大橋下流で50羽。上空をカギになりサオになり飛んでいた(町田好一郎)。

ゴイサギ ◇12月11日午後5時前、浦和市の常盤公園の人工池で1羽。東の方から来て、池の金魚を1匹とる。10~15分位いて、また東へ去る(江原愛・達弥他4名)。

アオサギ ◇12月3日、大宮市見沼町の芝川で1羽(浅沼源太郎)。

ヨシガモ ◇11月4日、狭山湖で♂1羽(三田長久)。◇11月29日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(井上幹男)。

ホオジロガモ ◇11月26日、狭山湖で♀1羽(三田長久)。

ミコアイサ ◇11月25日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(井上幹男)。◇12月3日、狭山湖で♀1羽(三田長久)。

カワアイサ ◇11月8日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(井上幹男)。◇12月3日、狭山湖で♂♀各1羽。♂の薄ピンク色が輝くように見えた(三田長久)。

オオタカ ◇11月12日午前11時30分、本庄市の阪東大橋下流で1羽。阪東大橋下流のカモ約2千羽を全て追い立てて東方へと飛び去る。スゲー奴だ!!(町田好一郎)◇12月7日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。

ハイタカ ◇11月7日午前9時頃、鴻巣市大間1丁目で1羽、人家のテレビアンテナにしばらくとまる(榎本みち子)。

ノスリ ◇12月1日、浦和市の芝川、霞野新橋下流右岸の桐の木にカラス20羽と共に1羽(大武昭雄)。◇12月7日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。

ハイイロチュウヒ ◇11月25日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(井上幹男)。◇12月4日、上里町鳥川で♀2羽。上尾筒の白がくっきり。アシの中でとまる姿も観察できた(阪東大橋探鳥会2次会組)。

チョウゲンボウ ◇11月19日、戸田市の戸田

橋付近の荒川河川敷で♂♀各1羽。11月30日、同所で♂1羽(高橋達也)。◇12月7日、戸田市道満で♂1羽(高橋達也)。

タマシギ ◇12月4日夕方、浦和市大崎の国昌寺付近の代用水東縁の川べりで♂1羽。木の根の陰に隠れてしまった(金子明弘)。

タゲリ ◇11月30日、浦和市見沼の芝川右岸の土手で34羽(大武昭雄)。◇12月1日、浦和市上野田の田圃で30~40羽(大武昭雄)。◇12月3日、浦和市大原の湿地で8羽(浅沼源太郎)。◇12月7日、戸田市道満で35羽(高橋達也)。

シロチドリ ◇12月7日、戸田市道満で18羽(高橋達也)。

ダイゼン ◇11月10日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

ウズラシギ ◇10月30日、狭山市の入間川、豊水橋下流で1羽(三田長久)。

ハマシギ ◇11月26日、狭山市の入間川、豊水橋下流で約210羽。この群れ中に左足に赤黄のリング、右足に白のリングをつけた個体が1羽いた。この個体は11月4日と5日にも見られた(三田長久)。◇12月7日、戸田市道満で48羽(高橋達也)。

キアシシギ ◇12月7日、戸田市道満で3羽(高橋達也)。

コミミズク ◇12月11日午後4時頃、浦和市秋ヶ瀬の東京農大グラウンド上空で1羽。カラスと共に飛ぶ。しだいに荒川下流の方へ飛んで行き、2回、水田の畔におりたがすぐに飛び立って森の彼方へ消える(星崎杉彦)。

ヒメアマツバメ ◇11月27日午後0時頃、浦和市白幡沼で2羽。2羽の内1羽が飛びながら水を飲む。北の方に飛び去る(海老原美夫)。

カワセミ ◇12月7日、戸田市道満の釣堀で♀1羽(高橋達也)。

ビンズイ ◇12月3日、大宮市立南中学校前の松林で1羽(浅沼源太郎)。

タヒバリ ◇10月25日、本庄市の阪東大橋付近で1羽(井上幹男)。

カヤクグリ ◇11月27日、長瀬町の宝登山で1羽。「チリソン、チリリン」といい声で

鳴いていた。(藤原寛治)。

ルリビタキ ◇11月27日、長瀬町の宝登山で♀1羽。ジョウビタキの♂に追いかけていた(藤原寛治)。◇12月23日、森林公園で♂1羽(榎本みち子)。

アカハラ ◇12月10日、大宮市丸ヶ崎町の自宅庭で1羽(金子真理)。

アトリ ◇12月11日、長瀬町の宝登山で♂2羽♀2羽(藤原寛治)。

マヒワ ◇12月11日、長瀬町の宝登山で♀2羽(藤原寛治)。

【2月のみどころ】

2月になると郷里の岩手にいた頃におじが話してくれた黄色い鳥の事を思い出します。

「オレの小さい頃、うんとしばれた朝は、家の庭に黄色い鳥が山からいっぱいやってきて、それがすごくきれいだった。」

私は、寒々とした雪景色の中、裸の立木に群がる黄色の小鸟を想像すると何か心暖まるような気がしました。また鳥大好き人間の私にとってその鳥の事が気になって仕方ありませんでした。ある年の2月、海沿いの林道をオオワシの姿を求めて歩いていて偶然出会うことができました。道端のハンノキの種子を一所懸命に食べている数羽の群れ。すぐ近くまで行っても逃げようとしません。マヒワでした。雄は目のさめるような黄色い鳥でした。

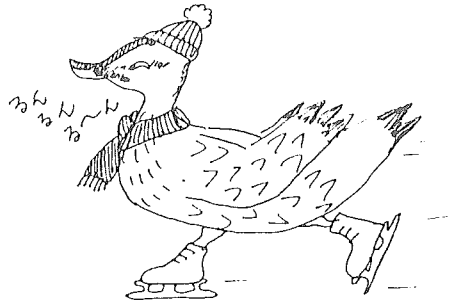
マヒワは県内でも冬から春にかけて数羽から数十羽の群れで出現しハンノキや杉などの種子を食べます。平地では春先に現れることが多いようで、昨年は浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で早春に30羽の群れが見られました。ただし、体が小さいですし、木の高い所で採餌していることが多いので、あまり印象に残

ベニマシコ ◇11月10日、本庄市の阪東大橋付近で♀1羽(井上幹男)。

ウソ ◇11月27日、長瀬町の宝登山で♂2羽♀2羽。ホバリングをしながらマユミの実をとり食べる(藤原寛治)。

スズメ(部分白化) ◇11月20日、浦和市三室の芝川付近で頭部が白いまだら模様の個体1羽(草間和子)。

シメ ◇11月1日、本庄市の阪東大橋付近で1羽(井上幹男)。



(カット・押川歳子)

らないかもしれませんが、じっくりと見る機会があれば、きっと忘れられない鳥の一つになると思います。もう1種類、黄色のきれいな鳥といえば、ミヤマホオジロがあげられます。雄は頭部の黄色と黒のコントラストが美しい、ダンディーな鳥です。西日本に多い鳥で県内では数は多くありませんが、各地で少数の群れが見られます。平地から山地の明るい林や林縁にすみ、地上で採餌している姿をよく見かけます。

他にも、今の時期は、河川敷や野山でアトリ、ベニマシコ、キクイタダキ、ウソ等きれいな鳥に身近な場所で出会える可能性がありますので、防寒だけはしっかりとしてバードウォッチングして下さい。

(藤原寛治)

表紙の写真

バードフォトコンテスト入選作

モズ (モズ科)

朝、犬の散歩で歩いていて、人を恐れないモズに出会った。いったん犬を家に繋いでカメラを持ち出し、またその林まででかけた。ファインダー越しに輝く目の中まで見せてくれた。近くで畑を耕していた農家の田口さん

は、このモズは近くの枝にとまって虫が出て来るのを待ち、土の中から出てきた虫をはおってやると、よろこんで食べるんだ、「かわいいもんだねえ」ととても良い笑顔で話してくれた。(写真と文・海老原美夫=浦和市)

行事あんない



吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前
交通：東武東上線東松山駅東口8:58発、または高崎線鴻巣駅東口8:50発のバス。
(詳しくは1月号をご覧ください。)

蓮田市・黒浜沼探鳥会

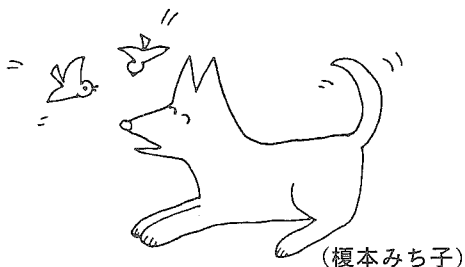
期日：2月5日(日)

集合：午前8時45分 東北本線蓮田駅東口
交通：東北本線大宮8:31発→蓮田8:42着
(詳しくは1月号をご覧ください。)

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月11日(土・祝)

集合：午前9時10分 西武球場前駅前
交通：武蔵野線南浦和7:58発→新秋津8:20着、徒歩7分、西武池袋線秋津8:39発→西所沢8:48着、西武狭山線乗り換え8:57発→西武球場前9:02着
解散：午後2時ごろ
後援：埼玉県(第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」キャンペーン行事)



(榎本みち子)

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発!

担当：海老原美夫、福井恒人、藤原寛治、黒田佳子、杉本秀樹

見どころ：カンムリカイツブリならここですよ。湖面を渡る風は冷たいけど、大満足の探鳥地。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月11日(土・祝)

集合：午前8時20分 高崎線上尾駅西口
または午前9時 丸山公園北駐車場
(上尾駅 場合、その後バス利用)
交通：高崎線大宮7:59発→上尾8:08着
／高崎線熊谷7:47発→上尾8:17着

解散：午後1時ごろ

担当：乗田実、森本國夫、赤瀬征雄、大橋義男

見どころ：広い園内でのんびり探鳥。冬枯れの芦原から何か飛び出さないかな。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月12日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:04発→大麻生9:12着
／秩父鉄道寄居9:01発→大麻生9:19着

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、岡安征也、町田好一郎

見どころ：冬空にユリカモメの白映えて。鳥ばかりでなく、冬越しする植物や昆虫の姿も観察してみましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月19日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田
実、手塚正義

見どころ：カラ類の混群は忙しそう。静かな
林の奥で、みんな今日も元気です。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：2月19日（日）

集合：午前9時 本庄駅北口
（その後現地までバス利用）

交通：高崎線大宮7：44発 → 本庄8：49着
解散：午後1時ごろ

担当：北川慎一、林滋、町田好一郎、小淵健
二、萩原正二

見どころ：そろそろ何かが現われそうな頃。
今度こそビッグな出会いが待っている。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：2月25日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、
三菱信託銀行と日建ハウスの間を入っ
て進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、
茶色5階建マンションの1階＝徒歩約
5分＝住所は12ページ下欄のとおり）
案内：ピッカピカの新事務局は会員交流の拠
点です。会員の輪は袋づめの会から。

野鳥写真クラブ定例会

期日：2月25日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：おやつ食べ食べ、スライドで探鳥。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：2月26日（日）

集合：午前10時 森林公園南口
交通：東武東上線川越9：10発→森林公園9
：33着、東武バス乗り換え、森林公園

南口行き9：42分 → 南口9：52着／
東武東上線寄居8：52発→森林公園9
：23着、以下同上バス利用

解散：午後1時ごろ

費用：入園料350円（子供80円）は各自負担
担当：諏訪隆久、渡辺敦、榎本秀和

見どころ：ひときわ華やかな、あのカモもい
るカモ。沼から沼、林から林をたどっ
てそっとウオッチング。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：2月26日（日）

集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗場（高島屋向い
側）から中野田引返場行き8：40発→
上野田下車／浦和駅西口1番バス乗
場からさぎ山記念公園行き8：55発→
終点下車

解散：午後1時ごろ

担当：松井昭吾、森本國夫、金子真理

見どころ：かつての「野田の鷺山」の地。ノ
スリ君と一緒に郊外の野鳥を探します。

長野県・軽井沢探鳥会

期日：3月5日（日）

集合：午前6時30分 大宮駅中央改札口前
交通：高崎線大宮6：42発普通電車に乗車、
高崎で特急に乗り換え、中軽井沢下車。
途中駅からの乗車も可。大宮7：22発
特急あさま1号利用も可。

費用：タクシーに分乗しますので、タクシー
代若干をご負担願います。

解散：現地にて午後3時ごろ

担当：福井恒人、楠見邦博、草間和子、横山
みどり

見どころ：レンジャクさんよろしくね。防寒
と足ごしらえはしっかりと。

3月11日（土）	神奈川県・城ヶ島探鳥会
3月12日（日）	熊谷市・大麻生探鳥会
同日	荒川村・日野溪谷探鳥会
3月19日（日）	浦和市・三室地区探鳥会
3月21日（祝）	秩父市・羊山公園探鳥会
3月26日（日）	坂戸市・高麗川探鳥会

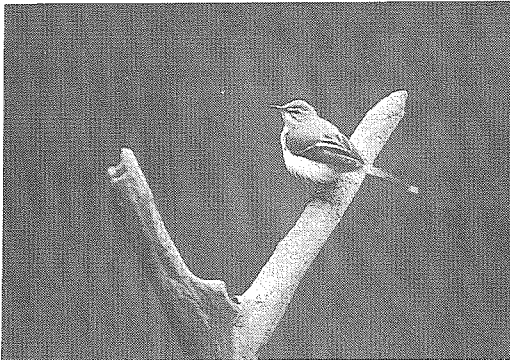
行事報告

11月26日(土)『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、楠見文子、小山啓子、小山則雄、登坂久雄、藤野富代、森本國夫、吉田二三子、渡辺 敦、渡辺孝章、(12人) 昨年3月から21回続いたコミュニティーセンターでの袋づめの会はこれで終り、次回からは新しい事務所。これからも、どうぞよろしく。

11月26日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 14人 **作品発表した人** 5人
シベリア、小笠原諸島などのすばらしい写真から、身近な野鳥、昆虫、草花などまで、今回も見ごたえがあった。



キセキレイ (海老原美夫・浦和市)

11月27日(日) 坂戸市 高麗川

人 57人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ マガモ ハイタカ コジュケイ バン イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス

(37種) 周囲の林は、紅葉の真っ盛り。天気はいいし、参加者は大勢と、雰囲気の盛り上がった所でのスタート。早々にカワセミが何度も出現する。途中、梢に止まるイカル数羽を見ていると、眼前をヤマセミが横切り、上空ではハイタカがソワリング。鳥合わせ中にもヤマセミが木に止まり全員が見られた。

12月4日(日) 本庄市 阪東大橋

人 42人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カンムリカイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ カワアイサ トビ チョウゲンボウ コチドリ イカルチドリ ハマシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) ポカポカ陽気の中、カモをじっくり観察。カンムリカイツブリやカワアイサ、オカヨシガモなどの姿も。林幹事のサービスの豚汁で体を暖めながら、望遠鏡を覗いた。どうも有難うございました。解散後は、有志で上流を探検。ハイイロチュウヒ雌タイプを目のあたりにした。

12月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 31人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ

メ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 小春日和の中、野鳥の森、大麻生河原から広瀬河原まで新しいコースを歩いた。野鳥の森でアカハラらしい声を聞いたが確認できない。しかし、冬鳥はほぼ全部そろい、大麻生では珍しいセグロカモメまでが飛来した。なんといってもメインディッシュは鳥合わせの時に舞ったコハクチョウだった。

12月11日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 21人 天気 晴 鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ ヨウゲンボウ ユリカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ セッカ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) やっばり、渡良瀬は猛禽の里。5種のワシ・タカが、代わる代わる飛行姿、立ち姿、上面、下面をおしみなく披露してくれ、良い勉強になった。カワウの黒首、カンムリカイツブリの白首、その林立ももう一つの見ものだった。

12月18日(日) 浦和市 三室地区

人 48人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コチドリ イカルチドリ タゲリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今年は寒いせいかタゲリが出現。ハマシギは朝の下見では30羽位居たが、本番では5羽ばかりで少し物足りなかった。しかし、好天でコガモの雄の模様がきれいに見えて感激。林ではアオジ、

ウグイス コゲラがよく見えた。

12月18日(日) 滑川町 森林公園

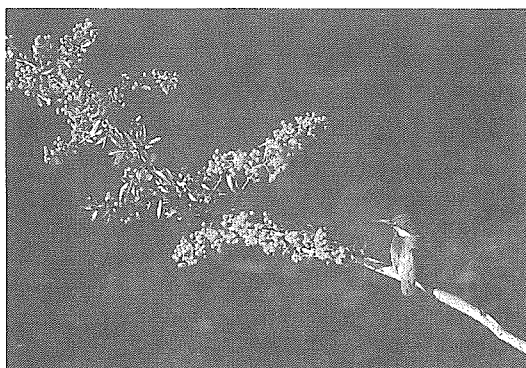
人 54人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ カヤクグリ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) あまりの参加者の多さにリーダーは大慌て。二つのグループの編成でスタート。初心者グループはカモの識別を勉強し、何度かカラの混群にも出会い、ベテランのグループは、カヤクグリやカモを狙うオオタカを観察した。

12月24日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

がんばってくれた人 石井純子、岩波勇一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、北川慎一、草間和子、佐藤晶人、諏訪隆久、林滋、藤野富代、吉田二三子、渡辺孝章 (13人)

12月24日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 15人 作品発表した人 8人
今回も傑作・自信作・自信ない作や失敗作に時々すばらしい作品、いろいろとりまぜて、すっかり楽しんだ。気兼ねなく自分たちの事務所のできる会は最高。



カワセミ (町田好一郎・本庄市)

連絡帳

全員ボランティアです

新しい事務所ができて張り切っている我が埼玉県支部は、役員・リーダー・事務局など、全員ボランティアの協力で成り立っています。支部活動から収入を得ている人は1人もいません。会費・探鳥会参加費・寄付金などは、すべて自然保護のための支部活動につかわれます。ボランティアたちは、交通費など自弁でがんばっています。

ボランティアなんだから、足りない点もご勘弁をと言いつけを言うわけではなく、善意の集まりだけが、参加者1,000人近くの我が支部を支えているのだということを、ちょっと自慢させてもらいたいのです。

1人でかっげば重いけど、みんなでかっげば重くない。

どうぞあなたのお力添えをお願いします。

全国支部のアンケート結果

会費処理の関係を中心にした本部からのアンケートに対し、全国72支部の内58支部が回答した結果がまとまりました。

①新会員制度導入による事務量は、
楽になった……埼玉県支部を含めて31支部
以前と変わらない……13支部
以前より負担……3支部

②会費切れの退会扱いは、
2～3か月後……埼玉県支部を含めて18支部
4～12か月後……11支部
1年後……10支部
2～3年後……5支部

③支部報の発行は、
毎月で年12回……埼玉県支部を含めて20支部
年6回以下……31支部

などです。いろいろあるものですね。

ありがとうございます

●次の方々からご寄付をいただきました。

大武昭雄 1,045円、岡安征也=時計、草間和子=カーテン・スリッパ・台所用品など、菅根正夫 500円、匿名=コーヒーセットなど、年末パーティー2次会組 10,750円、藤野富代=折りたたみテーブル5脚・カーテン・台所用品など、森野洋一郎 2,170円、渡辺敦 1,000円。

●次の方からは支部賛助会費（通常の会費との差額分8,000円）をいただきました。

諏訪隆久。（いずれも50音順、敬称略）

会員数は

1月20日現在 946人です。

活動報告

12月1日 本部総務部と事務連絡（事務局）。

12月9日 役員会報告と普及部だよりを役員とリーダーに発送（事務局）。

12月14日 県庁自然保護課で保護のつどい関係打合わせ（海老原）。

12月17日 役員会議（司会：渡辺周司、全国評議員会について、その他）。

12月19日 1月号校正（大武、西城戸、森本）。

12月19日 事業部年末事務処理など（草間）。



私は、原稿はできるだけマメに書くようにしている。「毎日少しづつ」と一人言しながらワープロに向かうのだが、その口癖がテレビCMに似ているというので、妻は私の原稿執筆を「ヨーメイ酒仕事」と呼ぶようになった。

そのココロは「毎日少しづつ、いつの間に健康（原稿）になっている」。

（榎本秀和）

『しらこぼと』1989年2月号（第57号）

定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦

編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

☎ 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）